

国語科学習指導案

指導者 千葉市立宮野木小学校 長谷川 恭子

1 単元名 おはなしのくに～なんのおはなしでしょう～ (小学校1年)

2 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、日本の昔話を讀んだり聞いたりし、それを題材にクイズを出し合う活動を通して、書かれている登場人物の行動を中心に**想像を広げながら場面の様子を読み取る能力、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力**をつけることを意図している。(新学習指導要領との対応 下記指導事項参照)

クイズ大会を行うという目的意識を児童に明確に持たせることで、**姿勢や口形、声の大きさや速さなどにも気をつけて話す技能**もしっかりと身につけさせていきたい。さらに、多くの昔話に触れることで、**日本の伝統文化を感じ取り、読書の幅が広がる**ことを願う。

(2) 現状認識

低学年の児童は、今までの生活の中で、たくさんの本や物語に触れてきている。しかし、調査してみると、オーソドックスな日本の昔話を意外にも知らない。また、題名を知っていても、どんな話なのか、はっきり覚えていないことが多い。そこで、低学年のこの時期にこそ、多くの昔話に触れる機会を持たせたい。一方、低学年といっても子どもたちは「話すこと・聞くこと」に関わる様々な体験をしてきている。それは、国語科の時間だけではなく、生活科、学校行事、異学年交流など学校生活のあらゆる場面で、積み重ねられてきたものである。しかし、それぞれの活動を見直してみると、言葉がはっきりしなかったり、話の筋が通っていなかったり、しっかり聞いていなかったりと課題は多い。

そこで、大好きなお話を通して、1年生なりに筋道を立てて話すこと、相手を見て話すこと、聞こえる声ではっきり話すこと、最後までしっかり聞くこと、感じたことを相手に伝えることなど基礎的・基本的事項を確認し、しっかりと身につけさせたい。また同時に、昔話のクイズの出し合いを通して、話し合うことの楽しさを味わわせたい。

3 単元の目標

○たくさんの昔話を聞いたり讀んだりする活動を通して、登場人物の行動を中心に**想像を広げながら場面の様子を読む力**をつける。

○クイズ作りを通して、おもしろかったところを思い起こし、**順序を整理して話す力**をつける。

○昔話のクイズを通して**感じたことや考えを伝え合う力**を育て、話し合う楽しさを味わわせる。

4 新学習指導要領との対応

本単元に関連する指導事項と言語活動例(学習指導要領解説 p 130～137 参照)

～第1学年及び第2学年～

- ・【 A 話すこと・聞くこと 】 指導事項イ, ウ, エ 言語活動例 エ
- ・【 C 読むこと 】 指導事項ウ 言語活動例 ア
- ・【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】 指導事項ア (ア)

昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり発表し合ったりすること。

5 指導計画(全6時間扱い)

時	学習内容と活動	指導や支援のてだて(★はポイント)
1	<ul style="list-style-type: none"> 昔話の絵を見て、知っている話を見つけて発表しあう。また、そのうちのいくつかの話を聞いて楽しむ。 出てきた昔話の題名を読んだり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型挿絵や紙芝居を活用し、話し合いながら、思い出したり浸ったりできるようにする。 字形や姿勢に注意して書くよう、声をかける。 自分で書いた本の題名をはっきりとした発音で読む。
	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな昔話を聞いたり、読んだりする。(読書タイム) 	<ul style="list-style-type: none"> ★公共図書館を活用し、たくさんの本を用意する。 興味を持てるように、子どもたちを近くに集め、質問したり確認したりしながら読み聞かせを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 教師の出す昔話クイズを楽しみ、クイズの方法を知る。 学習の見通しを持つ。 クイズにするお話を選び、読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもが扱いやすい「クイズのほん」の見本を作り、興味を持ってクイズに参加できるよう、楽しそうに手本を示す。 子どもたちと話し合いながらゴールを決める。 実態に合った本を選べるよう、助言する。
	<ul style="list-style-type: none"> クイズにするお話の絵を描く。(図工) 	<ul style="list-style-type: none"> いちばん好きな場面を描くように声をかける。
3	<ul style="list-style-type: none"> クイズを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ヒントを書く。 ▶ お話のおもしろいところや好きなところを書く。 (読み取ったお話を再構成する。) 	<ul style="list-style-type: none"> その昔話の特徴をつかんでヒントの言葉にしているか確認し、アドバイスする。 ★具体的に書いているか確認し、アドバイスする。
4	<ul style="list-style-type: none"> 話し方・聞き方を意識し、感想を交えながらクラスの友達とクイズの出し合いをする。 (姿勢や口形、声の大きさや速さに注意して、はっきりした発音で話せる)	<ul style="list-style-type: none"> ★鏡を活用して自分の話し方を振り返らせる。 また、ペアで見合い、誰もが確実に話したり聞いたりする活動を行えるようにする。 ★決められた時間まで話が続けるよう、ヒントカードを活用させる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 異学級の友達と、感想を交えながらクイズの出し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアを交代しながら、たくさんの友達と話ができるように、場作りを工夫する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 友達がクイズに出してくれた本を読んだり、さまざまな昔話を聞いたりする。 (読書の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館指導員の協力を仰ぎ、子どもたちの実態に合わせて、読み聞かせをしたり、さらに紹介したりする。

6 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

○クイズを出したり答えたりする活動を通して、相手に伝わるように話したり、相手が伝えたいことは何かを想像しながら聞く力を身につける。

○クイズから話題を広げることで、進んで話し合おうとする態度を身につける。

(2) 本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点や支援
1. 「言葉タイム（帯学習として設定した発声練習）」で、「お話キャッチボール」（言葉遊び）をする。 2. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○キャッチボールが滞ってしまうペアにはヒントを出し、ゲームとして楽しめるようにする。 ○掲示資料などを活用して、思い出せるようにする。
おはなしクイズで たくさんおはなししよう	
3. クイズの出し方と話し方を確かめ、 鏡を見ながら 個人練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><はなしかた></p> <ul style="list-style-type: none"> ・にっこりえがおで。・あいてをよくみて。 ・くちをおおきくあけて。 ・きこえるこえで。 </div> 4. ペアでクイズを出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><クイズのだしかた></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんのおはなしでしょう。 ・ヒント1～ ・ヒント2～ ・ヒント3～ ・〇〇さんどうぞ。・せいはいです。 ・ざんねんでした。せいはいは～。 ・このおはなしは～。 </div>	○実態に応じて、ワークシート（クイズの出し方）はなるべく見ないで話せるように声をかける。 ○教師が「はなしかた」の見本を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><ききかた></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいきもちで、うなずきながら。 ・さいごまでしっかり。 </div> ○意欲的に練習している児童を大いに誉める。 ○クイズの正解を言うとき、絵を示しながらはっきり話すように声をかける。 ○聞き手のエチケットとしての注意事項も確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを最後まで聞いてから答える。 ・答えがわかったら黙って手を挙げる。等 ○話が続かなくなってしまったグループには、ヒントカードを活用するように促す。

7 本実践の成果と課題

(1) 成果

- ・子どもたちは、日本の昔話に興味を持ち、楽しんで読み広げることができた。
- ・1対1の対話型でクイズの出し合いをさせたことで、一人一人が必然的に話し、聞く場を設けることができた。その中で、必然的に相手にわかるように話したり、大事なことを落とさずに聞いたりする力がついた。さらに相手を変えながら対話を繰り返すことで、楽しみながらも確実に話したり聞いたりする力がついていくことがわかった。
- ・公共図書館（中央図書館）を活用し、子どもたちがたくさんの昔話に触れられる環境を整えたことで、子どもたちは多くの昔話を知り、その中からクイズに出したいものを選ぶことができた。
- ・年間を通しての帯学習として、国語の学習の始まりに「言葉タイム」を設け、短時間で言葉遊びや発声練習を行ってきた。話すトレーニングでは鏡の活用も効果的だった。このような取組を継続することが言語活動の基盤となり、一層の充実につながるということがわかった。

(2) 課題

- ・本実践で、クイズの後、昔話から話題を広げて会話を続けることが難しい児童もおり、言語能力には個人差が大きいと感じる。今後も、言語能力の育成を図る学習活動を継続したい。